



四日市市文化協会 事務局だより

第104号

令和7年6月15日 発行

第75回四日市市民芸術文化祭

- 四日市王位戦将棋大会** 7/20(日) 文化会館 第3ホール
9:20受付 10時開会
参加費2,000円(おとな)、高校生以下1,500円 昼食付
- 大人のための朗読** 7/27(日) 三浜文化会館視聴覚室
13:30開場 14時開演 入場無料 定員50名

文化協会自主事業

どちらも入場無料です

「四日市ほのぼのの公募 ステージ発表会」7/6(日) 10時開演 文化会館 第2ホール

「四日市ほのぼの アートマルシェ」文化会館 展示棟第1展示室 AB

7/12(土)10時から17時まで 7/13(日)10時から15時30分まで

いろいろな作品展へ応募されませんか

- ・自然と暮らしの市民公募展・・・6/30(月)しめきり
- ・見て体験する美術展・・・7/31(木)しめきり

7月のCTY(テレビ)、CTY-FM(ラジオ) 放映・放送内容

7/1(火)から15(火)まで裏面の時間帯で放映・放送されます。サマーコラボレーション、総合美術展、短詩型文学祭作品募集の告知が主な内容です。

会員継続の手続きをお願いします

しめきり 5/23(金)を過ぎましたが、手続きまだの方がおみえのようです。

文化協会活動がスムーズに歩み出せるために、まだの場合は手続きを完了してくださいませようご協力をよろしく願いいたします。

◆文化協会ホームページの所属団体個人一覧 を更新しました。代表者名を変更ご希望された団体は更新しましたので、ご確認ください。名前に下線がついている団体は、クリックすると団体のホームページへつながります。問い合わせや入会の機会がどんどん増えることと思います。新しく団体のホームページへジャンプをご希望の団体は、アドレスを事務局までご連絡ください。(随時受け付けしています)

文化協会会員のみなさまの声を聞かせてください・・・随時受付しています

個人、団体、部門 いずれの立ち場でもかまいません。団体・部門の場合は代表として2名までとします。文化活動を進めるにあたって日頃困っていることや、当協会への要望等を忌憚なくお話しください。理事長、副理事長がみなさまのお話をお伺いします。

<令和6年度 一般社団法人四日市市文化協会 文化活動功労賞 授賞式>

5/24(土)文化会館 第3ホール

おめでとうございます。受賞された方々のますますのご活躍を祈念いたします。



向かって左から 加藤 武(かとう たけし)さん、伊藤 暢子(いとう ようこ)さん、
川田 勝(かわた まさる)さん、ろまんコーラスさんです。

<<文化協会からのお知らせ「ぶんきょうだより」は毎月放映・放送されています>>

<テレビ> CTY 地上デジタル12チャンネル(121チャンネル)

「北勢情報トライフル！」[毎月1日～15日放送]

月 10:00～/16:00～/19:00～
火 10:00～/16:00～/21:30～
水 10:00～/16:00～/22:00～
木 10:00～/16:00～/23:00～
金 10:00～/16:00～/21:30～
土 10:00～/16:00～/18:00～/22:00～
日 10:00～/16:00～/21:30～

◆パソコン、スマートフォンから「CTY コネクト」アプリをダウンロードして「北勢情報トライフル」を探してみてください。「ぶんきょうだより」をいつでも視聴できます！

<ラジオ> CTY-FM 76.8MHz(メガヘルツ)

ラジオ版「ぶんきょうだより」[毎月 第3・第4水曜日 17:30～放送]

★ぜひ、毎月ご視聴ください！

中條ていさん 講演会

2025.5/24(土) 14:15~16:00

演題「アイミタガイの原作者として想うこと」

桑名市が主な舞台となつた映画「アイミタガイ」の原作者で鈴鹿市在住の中條ていさん(69)による講演会が24日、四日市市文化会館で

「アイミタガイ」秘話語る

四日市で原作者・中條さん



小説の制作秘話などについて講演する中條さん＝四日市市文化会館で

あり、100人が小説の制作秘話などに耳を傾けた。同タイトルの小説は2013年に自费出版。同じ境遇にある人同士が同情し、助け合うことを意味する「相身互い」をテーマに、一期一会の連鎖が大きな輪としてつながる群像劇を描いた短編連作集。昨年11月に黒木華さん主演で映画化された。

中條さんは小説の登場人物に地元の人々の名前を使おうと募集した話を披露。「最初は軽い気持ちだったが、一人一人の名前に重みがあり、その人の人生を背負ったような気持ちになった」と思いを語った。

またアイミタガイは趣味で書く最後の小説にしようと考えていたと明かし「映画になるとは想像もしていなかった。作品を通して、自身が気付いていないところで助け合いのつながりがあることを改めて実感した」と話した。

(秋田耕平)

【中日新聞 2025.5.25 朝刊】

講演を聴かれた市民の方の感想です

- 中條ていさんのことを初めて知ったのはパッションでした。南山大学仏文科ということで同窓会報を読ませていただいたところから興味を持ち 5 冊のうち 4 冊を借り、アイミタガイは購入しました。最初に、「太陽の小箱」を読んだのですが、登場人物の 3 人の環境、感覚、表現など全く違う人間なのに、私自身の中に三人の感覚があって最後は泣いてしまいました。それから「ヴァネッサの伝言」「ヴァネッサの伝言 故郷」「空に祝ぎ歌」では、架空の世界であり登場人物なのですが、現実の世界に存在する善良なお互いをおもいやれる人間を扱っていて、ガザの悲惨な映像、ウクライナとロシアの長引く戦闘、毎日の悲しいニュースなどに心痛める日々の中にあって心が整う内容でした。このような本を書いてくださった中條ていさんはどのような方なのか興味を持ち、講演会に申し込みました。最後に読んだのが「アイミタガイ」で映画は見ませんが、内容に少なからずの方々が涙したと聞くと何故かそれだけでほっとします。土曜日の講演会で中條ていさんは終始穏やかな話し方をされてとても気持ちよく聞けました。どの本も「死」が出てくる、「死」についての想いを語られたところで思わず涙が出て止まりませんでした。個人的な話になりますが、19日に同期の友人が5ヶ月弱の闘病の末亡くなられ、思い出すたび涙が込み上げてくるのです。中條さんの「死」というものに対する想いに心を揺さぶられたのに泣いてしまってその言葉を再現できずに残念ですが、誰にも訪れる死は悲しいけれどその人の残してくれた思い出を大切に、その人の想いも受け継いで、次の誰かに良い思い出を残せるように乗り越えていかなきゃいけないなと思いました。偶然のことですが、日曜日に中條ていさんのこともアイミタガイが故郷の桑名で撮られたことも何も知らなかった川崎の友人と電話で話す機会がありました。彼女は黒木華さん、草笛光子さん、風吹じゅんさんが好きということだけで、アイミタガイを WOWOW をすでに録画予約していたのですが、早速見た後の感想が以下です。「昨日電話のあとで wowwow の録画をチェックしたら、すでに 5/20 の放送を録画済みでした。先ほど早速 録画を見ましたが、本当にいい映画でした。実にいい映画でした。原作とその他の作品も読んでみようと思います」最後に、私は同窓生の 3 年先輩となります。中條さんはキリスト教倫理の授業に感動され号泣までされ心の支えになったということですが、私は「平和のための祈り」感動して女声コーラスで歌い、心の支えになってきました。またいつかお会いしてお話できる機会があれば嬉しいです。
- 昨日はとても楽しいお話を聞かせていただきありがとうございます。私の名前は小倉です。映画を観て原作を読み、何か縁を感じ、やっぱり一番心に残ったのは小倉こみちさんの章です。実在の小倉こみちさんのお話を聞いて残された家族のことを思うととても悲しいですが、先生の「死を悲しむだけでなく、その人に想いを馳せてどう生きてきたかを考えることが大切」という言葉を忘れずに彼女の分も長生きしなければと思いました。先生は 50 歳から小説を書き始めたとのこと。私は今 52 歳です。一度しかない人生を「アイミタガイ」の精神で楽しんで前向きに生きていきたいと思っています。いい時間を過ごさせていただきありがとうございました。
- この度は講演会に登壇していただき、誠にありがとうございます。私は三重県が舞台になっているということで、アイミタガイという作品の存在を知りました。映画については、1 回目は一人で観に行き、観終わった後に、「1 回だけではもったいないな……今度は自分の大切な人と一緒にこの作品を観たい」と考え、2 回目は夫を誘い、二人で拝見しました。今回の講演会に参加したのは、アイミタガイという作品の内容や雰囲気、メッセージ性に大変心を動かされた経験から、ぜひ中條先生のお話のお聞きしたいと考えたためです。講演会では先生が作家になられたきっかけから、先生個人のお話、アイミタガイにまつわるお話など、たくさ

んのお話をさせていただき、参加して本当に良かったと感じました。とくに、登場人物の名前を募集したお話が印象に残っています。講演会で色々なお話を聞いていく中で、先生自身の物事に対する考え方についても知ることができ、自分にとって学びの多い時間となりました。本当にありがとうございます。ここからは私事になってしまうのですが、私は昔から、自分が死ぬまでに、何か一つで良いから世の中に作品を出したいと思って生きてきました。賞にも応募したことはありますが、箸にも棒にも引っかけられない状態で、そこから10年程年月が経ち、今はもう、日々の生活に忙殺され、自分の中に幼い頃から胸に秘めていた闘志のようなものが、少しずつなくなっていつてしまっていることを感じていました。そんな中、先生の講演に参加したことで、また作品を書きたいなど強く思い、実は講演会後から、大変大雑把にはありますが、話の内容から登場人物、結末までを考え、冒頭部分を書き始めています。あんなに書くのを躊躇していたのが、不思議なくらいです。先生にいつかプロとしてデビューして本をお渡しできるよう、その日まで頑張りたいと思います。今の自分にとっては大きすぎる夢ですが、実現できるよう、精進したいと思います。先生もお身体を大切にどうぞご自愛ください。この度は本当にありがとうございました。

- 本日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました！特に小倉こみちさんのエピソードを聞いたときには、この作品が生んだ数奇な運命に驚愕し、悲しい結末を聞いたときには思わず涙ぐんでしまいました。でもまた機会がございましたら、私もぜひ旧姓の名前を使っていたいただきたいです！
何よりも、アイミタガイのような素敵な意味を持つ日本語を後世にも伝えていきたいと思いました。これからもこの言葉を大切に、全ての出会いやご縁に感謝しながら、例えもし上手くいかないことがあっても、他の次元に思いを馳せるなど、ケセラセラの気持ちで生きていこうと思います。また素敵な作品を楽しみにしております。
- 中條先生、貴重なお話しありがとうございました。早速、帰宅時にDVDレンタルしてきましたので、講演内容、出演シーンを楽しみに贅沢な時間をすごしたいと思います。関係各位、ありがとうございました。
- 貴重なお話し有難うございました。外は雨でしたがラムネのような爽やかな先生に癒されました。またこのような機会があればと思っております